



実験の説明をする危機管理学部教員の佐藤准教授

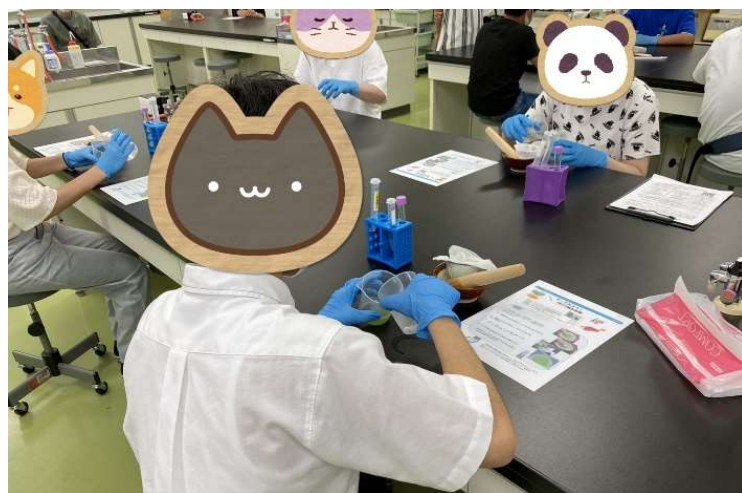
オーブンラボ新聞

発行人
StudioNoguchi

漢方とDNA

今月の
オーブンラボも
「熱かった」

7月16日(日)快晴。
今月のオーブンラボは本学の名物である3月部号棒イベント「災害救助演習」後に行われた。テーマは2つ。五感を使った漢方薬の分類と見えるぞ！DNAの世界である。「漢方薬・DNA」この2者を聞いたことのない人はいないだろう。しかし、それが何者かを説明できる人も少ないと思う。今回は誰でも知っているが奥の深い漢方薬・DNAに関するなぞときだ。



DNAが見える瞬間の様子

テーマ解説②

五感を使った漢方薬の分類

担当者にテーマを聞いた。

「漢方薬は複数の生薬（しょうやく）の集合体です。現在の漢方薬はエキス剤（顆粒、錠剤、カプセル剤）が主流で、生薬の集合体であることが実感できません。今回は本来の漢方薬を用意しました。それぞれの生薬は色、形、質感、においが異なります。五感を使って分類し、手渡された漢方薬が何かを鑑定した上で、実際に煎じて、香りや味の違いも体験してください。」（詳細は2面へ）

テーマ解説①

見えるぞ！DNAの世界

家にあるものを使ってDNAを観察する実験と、一歩踏み込んだDNA配列上の繰り返し配列を利用した親子判定に挑戦した。実験では中学生を含む参加者8名が見事にDNAを抽出。ふわっと漂うDNAを見て、わあーと驚いた学生もいて盛り上がった。一方、親子判定。繰り返し数を数える作業に入ると、空気が一変！黙々と数えている姿に担当者は反省の色。それでもほとんどの学生が父親・母親を突き止めることができました。



漢方薬を煎じて試飲

触って感じて見て嗅いで話聞いて味わって

まさに五感体験



五感で分類？

「漢方薬は名前しか知らない状態で、実際にどんなものを使っているか知れて良かったです。」

今回のテーマは「五感を使った漢方薬の分類である」。現在、漢方薬を煎じて飲むことはあまりない。生薬の成分を集めたエキス剤が主流である。そのため、漢方薬を漢方薬として知らずに服用する人も多いという。このテーマでは、漢方薬を各生薬に選別し、形状、におい、味の違いを確

かめる。そして、生薬の種類と質量比から各班に割り振られた漢方薬を鑑定した。

「苦い、けど効きよん」

そして、試飲の時間だ。漢方薬を水の入ったビーカーに入れ、ガスバーナーで加熱する。しばらく煮込み、コップに注ぎ試飲。「くうーくうーっ」



漢方薬を選別します



漢方薬を煎じていざ試飲 気になるお味は??

アンケート結果

今回のオープンラボは親子での参加が多く、親子で楽しそうに漢方薬の鑑定をしていたのが印象的だ。イベント終了時にいただいたアンケートのコメントを抜粋する。

Aさん 参加する前から、漢方薬の分類が楽しみでした。

Bさん 同じ見た目のものが多く、悩んでいたところ、香りが参考になると教えていただき助かりました。

Cさん 先生方も親切にやり方などを教えてくださりとても楽しく体験することが出来ました。Dさん 漢方薬は飲みづらいたという先入観がありました、それを正に実感しました。

Eさん なかなか体験できない貴重な時間でした。楽しかったです。

☆まだまだ続く☆

8月11日 (金・祝)

- ・高機能患者シミュレーターを使った演習
- ・探せ！遠くて身近な野生動物



OPEN LABO.
紹介動画 (50秒)



OPEN LABO.
詳細・申込・最新情報